



2024年6月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0041
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News



人類学の視点から考える 「Think locally, act globally」

表紙の写真から：2023 ICEP 国際理解教育プログラムにて。ICEPのメンバーと日本の高校生の交流の様子です。

はじめに

近年、「Think globally, act locally」というフレーズが盛んに言われています。これは、地球規模で考えながら地域で行動することで、より良い社会を実現できるという考え方です。しかし、一見シンプルなこの言葉には、人類学の視点から考察すべき様々な側面があります。私は、人類学の視点からローカルとグローバルの概念を探究し、効果的な社会変革のためには、ローカルに考えながらグローバルに行動する視点を養う必要があると思っています。

ローカルとグローバル：複雑な関係性

人類学において、ローカルとは特定の地域社会を指します。その地域社会は、独自の社会組織、文化的慣習、歴史を持ち、豊かな多様性を表しています。一方、グローバルとは世界全体を指し、国際貿易、通信技術、文化の流れなどを通じて、世界中の地域社会が相互につながっていることを意味します。

グローバリゼーションの進展により、ローカルとグローバルの関係はますます複雑化しています。グローバルな力は、地域社会の経済、政治、文化に大きな影響を与え、伝統的な慣習や価値観を変容させることもあります。

しかし、この関係は単純な一方通行ではありません。グローバルな現象は、ローカルな文脈を通して濾過され、独自の意味や適応を獲得します。「グローカリゼーション」という概念は、まさにこの相互作用を指します。例えば、マクドナルドのメニューが地域ごとに異なるのは、グローバリゼーションとグローカリゼーションの両方の影響を受けている例です。

Think globally, act locally：可能性と限界

「Think globally, act locally」というフレーズは、環境問題や市民社会活動など、様々な分野で有効なアプローチとして提唱されてきました。しかし、グローバルな考えがローカルに到達するとき、それは時に非常に異質なものであり、ローカルなものに力を与える代わりに、圧倒してしまう可能性があります。

例えば、ある人類学者は、アマゾンの子どもへの義務教育の負の影響を指摘しています。アマゾンで義務教育を受けるとはつまり、子どもが親元から離れ、寄宿舎に住みながら学校に通います。数年間の教育により就職が保障されるわけではなく、アマゾンで暮らすためのス

キルを学ぶ機会を失ったためアマゾンに戻ることもできません。なんのための教育でしょうか？グローバルな「Education for all」という理念に基づいて導入された教育制度は、地域社会のニーズや文化を考慮せず、子どもたちの生活を破壊してしまう可能性があります。

Think locally, act globally：ローカルとグローバルの両立

人類学は、地域社会の特殊性に自分自身を同調させることによって、ローカルに考えることを私たちに推奨しています。地域の知識体系、社会関係、歴史的経験を理解することは、文化的に適切で、生態学的に持続可能な社会問題の解決を導く上で極めて重要です。

一方、グローバルに行動するには、世界の課題が相互に関連していることを認識する必要があります。気候変動、パンデミック、経済的不平等のような問題は、地球規模で一体となった行動が必要です。これらの問題に対する認識を高め、国際協力を提唱し、世界的な連帯を促進することが重要です。例えば、気候変動が世界中の先住民コミュニティに与える影響に関する研究は、持続可能な開発と環境保護に関する世界的な政策決定に役立ちます。

ローカルとグローバルの二面性を受け入れる

「Think locally, act globally」という概念は、社会変革のための有効なツールとなり得ます。しかし、この概念を単なるスローガンとして捉えるのではなく、ローカルとグローバルの二面性を理解し、両者を結び合わせる視点を持つことが重要です。地域社会の特殊性を尊重しながら、世界の課題と相互に関連していることを認識することで、私たちはより公正で公平な世界の構築に大きく貢献することができます。

2024年7月宇都宮東YMCAがグローバルコミュニティ・Base・East（仮）として、生まれ変わります。活動を地元や地域（ローカル）に続けながらも、地球のあらゆる友だちたちとグローバル（地球規模）にどこでも、誰とも共にあることのできるよう、フィールドを「ローカル×グローバル」に設定してゆきたいと思えます。今後は地元で活躍される方からもご助言いただき、活動してまいりますので、どうぞよろしく願っています。今回は、宇都宮市在住の特定非営利活動法人 難民を助ける会（AAR Japan）より林 早苗氏からご寄稿いただきました。

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2024年度とちぎYMCA年間聖句

《善いサマリア人》の喩え

新約聖書 ルカによる福音書 第10章30節～37節



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

「 春の遠足 」



5月14日に年少・年中・年長組の春の遠足で八幡山公園に行ってきました。新緑が眩しい5月の晴天に恵まれて、行きは全員歩いて公園に向けて出発しました。年少組の子の手を年長組のお兄さんお姉さんが繋いで歩いてくれたおかげで、事故や怪我なく無事に公園に到着することができました。

年長組は宇都宮タワーに上り普段暮らしている宇都宮の町を上からの見ることが新鮮に感じたようです。アドベンチャーUでもたくさん遊び、賑やか声が公園に響いていました。そして朝から楽しみにしていた、お弁当の時間。美味しい笑顔が満開でした。

4月に入園、進級したばかりと思っていた子どもたちですが、立派な年長さんになって年少さんを思いやりながら歩幅を合わせて歩いてくれていて姿、「年中さん集まって!」の掛け声で一斉に集合する姿、入園の頃泣きながら登園していた子が笑顔で滑り台で遊ぶ姿。それぞれの成長が感じられた遠足になりました。

本澤 利香



宇都宮市青少年活動センター(トライ東)

「 W4W(week for Waste)花壇の整備 」



宇都宮ワイズメンズクラブの皆さまが、W4W(week for Waste)の活動として花壇の整備と、児童遊園・テニスコートの草むしりをしてくださいました。

W4W(week for Waste)とは、2020年度から世界中のワイズメンズクラブが参加し、毎年4月のアースデーに合わせて実施されているプロジェクトです。

トライ東では毎年、宇都宮ワイズメンズクラブの皆さまが、緑化活動を行ってくださっています。きれいになったお花を見るのを利用者の皆さまも楽しみにされている様子です。スタッフ一同心より感謝申し上げます。

川口 夏菜子



子どもの家だより

～瑞穂野南小子どもの家(みずほのぼくらクラブ)～

「 思いやりのある2コでのドッジボール 」

新年度が始まり、今年も可愛い1年生が仲間に加わりました。

2日目に「2コボールでのドッジボール」を始めた子どもたち。1年生は最初は嫌がるかな、と思いを察していると、「やりたい、やりたい」という声があがり始めました。

高学年同士では思いやり投げ合っていますが、相手が低学年になると思いやりをもって、やさしく投げています。

回を重ねるごとに動きも早くなり逃げるのも上手になりました。最近では毎日、2コボールでのドッジボールで盛り上がり遊んでいます。



主任支援員 大塚 美都子



ようとう保育園 「 年長児さくら組 活動の様子 」



4月から新しく2名が加わり、24名でのさくら組がスタートしました。年長さんだから、と身のまわりのことは積極的に自分でやり、小さい友だちには優しく声を掛け、手を引いて関わる姿が見られています。

制作が好きな子が多いため、画用紙にペンで色を塗っててんとう虫、キッチンペーパーを絵の具で染めてこいのぼり、最近では布を絞り染めして運動会で使うフラッグ作りなどをしました。絞り染めでは、ビー玉や割り箸を布に包んで輪ゴムで縛ったり、洗濯ばさみでとめたりと各々でどこにするのか考えることで、一人ひとりデザインの違う世界に一つだけの旗が完成しました。液につけて色がつくと、「〇〇くんもかっこいいね!」と伝え合ったり、「お花みたいで綺麗〜!」と自分で染めた布に愛着を持ったりと、運動会に向けてのやる気にもつながっているようで今後の練習や本番が楽しみです。

園外活動では宇都宮大学のお庭やかぶとむし公園に散歩に行き、春の自然に触れ、隣接するアオーレ今さんでじゃがいもの種芋を植える体験をさせて頂きました。数日後「朝保育園に来るときにじゃがいもの葉っぱが出ての見た!」と子どもから話があり、皆で見に行くと小さな芽がいくつも出てすすくと育っていました。定期的に観察や水やりをしながらおいしいじゃがいもができるのを心待ちにしています。

さくら組担任 亀和田 里沙・阿久津 真里



サマープログラムが始まります!

とちぎYMCAではこの夏も子どもたちの全人的成長を願い、サマープログラムを計画しております。YMCAのキャンプは、「為すことによって学ぶ (Learning by doing)」を理念とした野外教育活動です。その理念は、「どのような教育的な経験も、子ども(対象者)の興味・関心から離れていたならば、その経験は子ども(対象者)にとって本質的なものにならない。よって興味と自発性に基づいて子どもを導く」という考え方に導かれたものです。

子どもたちは、友だちと一緒に自然の中でさまざまな活動することによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。YMCAでは、子どもたちが安全に、安心して、たくさんの自然に触れながら、仲間と一緒に思いっきり遊ぶことを通して、一人ひとりの豊かな成長を育みます。



6月18日(火) 12:30より
申し込みスタート!

～宿泊キャンプ～

日光ほしぞらキャンプ (8/5-7)
ふくしま湖畔キャンプ (8/22-24)
さしまチャレンジキャンプ (8/27-28)

～デイキャンプ～

チョイス①牧場アイスクリームづくり (8/1)
チョイス②魚つかみ&水あそび (8/2)

～2DAYS プログラム～

ICEP 2DAYS (7/30-31)

～ウェルネスプログラム～

とちぎYMCAサッカーフェスティバル 2024 (7/27)
短期水泳 1期 (7/23-25)
短期水泳 2期 (8/19-21)

国際協力募金・知ることからはじまる国際協力

国際協力募金 2023 ご報告



2023 年度も国際協力募金へご協力いただきまして誠にありがとうございました。たくさんの方にご支援いただき、総額 502,772 円 (*パレスチナ支援指定募金含む) が集まりました。

12月～3月に行いました国際協力募金強化期間のクリスマス・お年玉募金ではお子様から成人の方までたくさんの方から応援メッセージもいただきました。皆様からいただいた温かいお気持ちは、とちぎYMCAと長年交流のあるフィリピン ナボタス タラの学生への奨学金、日本YMCA同盟を通して世界でサポート

を必要としている方々への支援、とちぎYMCAの国際協力プログラムの資金、ウクライナ支援、パレスチナ支援募金などに使わせていただきます。

2024年度も引き続き『夢や希望をもち、生きる楽しさや喜びを感じられるように。どこに暮らしていても、安心して学び、遊べるように。私たちが誰かの犠牲の上に生きることがないように。分かち合い、助け合い、平和な社会を築いていくように。』国際協力募金へのご協力をよろしくお願いいたします。

SDGsの実現に向けて



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「知ることからはじまる国際協力」 難民ワークショップのご報告



2024年4月20日(土)「知ることからはじまる国際協力」というタイトルで、ワークショップを行いました。今回は AAR 難民を助ける会から林先生をお迎えして、難民について学びの時をもちました。お子様連れで参加して下さる方や、子どもから大人まで、約15名が集まり、もし自分が難民だったら?お友だちに難民の子がいたらどうしたらいいか?について意見を出し合いました。

「普通に幸せに暮らしていたのに、ある日突然、国が争いを始めて自国にいられなくなってしまった。難民キャンプに行って生活はしているものの、制限のある生活で今後どうしたらいいのか?選択肢は3つ、①難民キャンプにとどまる。②第3国へ行く ③自分の国に帰る」どの選択肢にもメリット・デメリットがあり、難しい選択でした。参加者全員が自分のことだけでなく、家族にとってどうしたらいいのかを真剣に考え、意見を出し合いました。結論が出せない家族もたくさん出ました。それだけ、どの選択肢にも困難なことがあると想像したからです。考えるだけでも怖くて、不安な気持ちになったのに、実際に今その現状の中で生きている人々に私たちは何ができるのでしょうか?ウクライナやパレスチナのニュースを毎日のように見聞きし、支援を必要としている人々を今までよりも身近に感じています。知ることからはじまって、何か一緒に行動できる仲間を見つけたいと感じたワークショップとなりました。

次回は7月7日(日)アメリカの高校生と一緒に「災害対策ゲーム」を予定しています。皆様からの「こんなことを学んでみたい!」というお声も募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。

とちぎ YMCA 会費ご寄付によるお支えのお願い

日頃よりとちぎ YMCA を温かくお支えいただきまして、ありがたく御礼申し上げます。
 2024 年度からのとちぎ YMCA は A・B・C! (あたりまえのことを、バカにしないで、ちゃんとやる!)
 まだまだといったところが多いですが、本日は YMCA 基本の一つである「運動体の YMCA」を支えいただくためのお願いを申し上げます。
 ここ 10 年のとちぎ YMCA は、子ども園 (さくらんぼ)、保育園 (ようとう)、介護保険地域密着型サービス (CCE)、指定管理事業 (トライ東、子どもの家)、委託事業 (アットホーム、めいめい) など制度のお仕事をたくさん与えていただきました。
 生き生きとした YMCA はこうした制度の枠に収まりきれないソーシャル・アクション (社会課題の解決につながる) うねりを生み出します。子ども食堂 (つぼみ)、キャンプやプログラムへの子どもたちの招待、ボランティア・リーダーの育成などなど、制度の枠のお金ではまかなえない活動が生まれています。
 この部分こそが! 「運動体 YMCA」の YMCA で、制度のお金が使えない部分です。
 ぜひ、みなさまの「YMCA 会費」のご寄付で、世の中の役に立つ YMCA の基本の運動性をお支えください。よろしくお願い申し上げます。

【対象】
 YMCA の活動に参加して下さる方であれば個人・法人に限らずどなたでもご入会いただけます。

【有効期限】
 1 年度 (4 月～3 月)

【会費】
 A : 5,000 円 B : 10,000 円 C : 30,000 円 D : 50,000 円

- 【会員の方には】**
- 機関紙「とちぎ YMCAnews」が年 10 回程度届きます。(メールでの受け取りも可能です)
 *維持会員費のお支払いがない年度は停止されますが、機関紙のみをご希望される方は、とちぎ YMCA (028-624-2546) までお知らせください。
 - 会員大会 (任意参加) へのご招待
 - 野外プログラムなど会員価格にてお申込みいただけます。
 - 会費は寄付金控除の対象です。

【新規申込み方法】

- お電話 (028-624-2546) 資料をお送りいたします。
- ホームページより (QR コード)
- 各 YMCA 事務所にて

- 【継続申し込み】**
 維持会員費をお支払いください。
- ホームページより (QR コード)
 - 各 YMCA 事務所にて



※とちぎ YMCAnews 送付についてのお知らせ
 とちぎ YMCA をお支え頂きありがとうございます。今後は基本的に維持会員費をお支払いいただいている方のみ、とちぎ YMCAnews をお送りさせていただくこととなりました。引き続き送付のみを希望される場合は、喜んでお送りいたしますので、大変お手数ですが、各 YMCA までお知らせください。

■2024 年 4 月 個人 (敬称略)
 加藤 福来

月刊# (ハッシュタグ)



第36回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総主事
 塩澤 達俊

#利他 #小僧の神さま #黄金律 #毎度ありがとうございます!

ここ数年、日本 YMCA 同盟主催の専門職管理者研修 (保育園や子ども園、放課後児童クラブや介護など専門職領域の管理職のかた向け)「YMCA プラントと福祉」の講師のご用命をいただいております。今年もありがたいことにお声掛けをいただきました。

国や地方自治体の制度下の福祉の事業は、どのような法人や NPO がその事業を受託していても同一水準の市民サービスが求められていますので、請け負った事業者によってケアの質にバラツキがあらはれません。

それでも各事業者には固有の使命とミッションと理念があるので、統一の水準を維持してケアを提供しながらも、「私たち」がそれを為すべき明確な動機やモチベーションが整合されていなければ、「業務仕様書」を超える善い働き=より良質なケアへの努力は生まれないものです。

そこでわたくしが頂戴している専門職管理者研修の講義では、子どもから高齢者とかかわる方々は様々でも YMCA の本質から考えたとき、そのケアの意味や価値はどこになるのか何なのかを考えられるように心掛けています。

ところが、この数年の講義でわたくしは「利他」というワードを用いて思索の旅をしているのですが、わたくしの中で探求中=言い換えると生煮えの思索のため、受講の方々に申し訳ないのですが少々内容が迷走中です。

そのため講義の後味は「スッキリ!」ではなく、「????」「モヤモヤ」なので、今回で講師のご用命は終わりだなと毎回思っているのですが、なぜか今年もご用命いただきまして「毎度ありがとうございます!」です。

昨年は『小僧の神さま (志賀直哉)』を読み解いて (『思いがけず利他』中島岳志著をガイドに)「利他」と「利己」の摩訶不思議な関係に想い馳せました。YMCA 的テーマとしては「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイによる福音書 7:12) を日々のケアから再考する挑戦的な営みです。

今年もすこしでも「スッキリ」後味になるよう相務めさせていただきます。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」



つぼみ通信 vol.14



今年度も、つぼみ食堂が始まります!

新年度になり、つぼみも新体制となりました。私自身今年度のプログラムリーダーとなりつぼみの先頭に立つ場面も多くなるため、不安もたくさんあるのですが、つぼみのリーダーと力を合わせて行きたいと思えます。また、先輩方が築いてきた良さを残しつつ新しいつぼみをつくっていけるように頑張ります!

いよいよ今年度のつぼみ食堂が始まります!昨年度は多くの方が訪れてくださり私たちも嬉しい気持ちでいっぱいでした。今年度は昨年度以上の方に来ていただきみんなに愛されるつぼみ食堂をつくっていきたく思います。

2024 年度第 1 回 つぼみ食堂
 6 月 8 日 (土) 16:00 ~ 18:00
 宇都宮市青少年活動センター (トライ東)
 〒321-0962 宇都宮市今泉町 3007 番地



作新学院高校 2 年 佐藤 蒼依